



Koryo 陵 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077
http://kouryo-high-school.com / Eメール kouryo@chibagakuen.ac.jp

聖火リレーイベント

7月23日(金)から開催が予定されている東京2020オリンピックに先立ち、3月25日(木)から福島県を皮切りに全国各地で行われている聖火リレー。6月11日(金)は、館鼻漁港で聖火到着を祝うセレモニー「セレブレーション」が実施され、バトン部が参加した。同部は千葉高とバトンチームアリエスとの合同チームでセレブレーションのトリを飾った。同チームは、スポンサーであるコーラ・コーラのTシャツに身を包み、この日のために作られた曲にのり最高のパフォーマンスを披露。聖火リレー到着を盛り上げる一役を担った。新型コロナウイルスの影響で、活躍の場がなかった部員たちは、実に3月末以来のイベント演技となった。部長の若本良さん(3年・第一中学校出身)は、「久しぶりに大勢の観客の前で演技しました。手拍子や拍手、観客の笑顔に後押しされて私たちも楽しむことができました」と話し、限られた者だけが上がることのできるステージに興奮を隠しきれない様子であった。



石岡先生講話

6月14日(月) LHRにおいて、1年生を対象にスクールカウンセラー石岡れい子先生による講話が行われ、ストレス対処法を教わった。石岡先生は、「ストレスは心が強い・弱いかかわらず誰にでもあるもの」とし、「上手に対処して乗り越えられれば自信につながる」とお話された。生徒たちは、すぐに取り組める呼吸法などを先生と一緒に実践しながら、リラックスして話を聞いていた。石岡先生の講話は1年生を対象に今後も行う予定。



スポーツテスト

6月17日(木)、八戸東運動公園をお借りして全校スポーツテストが行われた。開始時は、小雨が降り少し肌寒く感じられたが、天気は晴れ間も見え、頃には晴れ間も見えスポーツ日和となった。生徒たちは、50メートル走、立ち幅跳び、女子1000メートル、男子1500メートルの記録測定に挑んだ。



SNS講習会

6月21日(月)、全校生徒を対象にSNS講習会が開かれた。講師は生徒指導部の成田先生。SNS上のトラブル、ネット依存、インターネット上のトラブルについてそれぞれ動画を視聴し、皆で問題点を挙げていった。中でも、高校生に限らず増加傾向にある誹謗中傷については、誰でも加害者や被害者になり得るということを確認した。生徒たちは、自身が使う言葉の重要性、責任について考えさせられたようだ。講習会の最後、便利さの中に潜むトラブルは、自分で気をつけることも大切だが、困ったことが起きた時には、そのままにせず信頼できる大人に相談することも大事だと結んだ。



進路相談会

6月22日(火)、さんほう主催の3年生対象進路相談会が行われた。大学・短期大学、専門学校、就職の3つのコースに分かれ概要説明と模擬面接などの指導をしていただいた。3年生は、コロナ禍の影響で昨年中にオープンキャンパスに参加できなかった生徒はごくわずか、進路研究があまり進んでいないのが現状だ。生徒たちは、わずかな時間での模擬面接も緊張感を持って臨んでいた。受験に対する不安は大きいですが、それでも迫る進路決定に向け、各自が目指す進路に近づこうという意気込みが感じられた相談会となった。



教育実習生来校

6月7日(月)〜25日(金)まで卒業生の大久保智朗君(平成29年度卒/長野市立北部中学校出身/八戸学院大学・健康医療学部・人間健康学科4年)が教育実習のため来校した。授業は2年生の保健体育と体育、HRは3年2組を担当。6月22日(火)は保健体育の研究授業を行った。単元は、感染症とその予防「性感染症とその予防」「エイズとその予防」で、当日は、性感染症に対する個人の予防方法の理解、エイズの現状などを、クイズを交えながら展開した。また、23日(水)は体育の研究授業を行った。種目はバスケットボールで、今後4チームで行うゲームに向けて、空間を作り出す動きを向上させる目標を掲げて授業に取り組みしていた。生徒たちは、互いに声を掛けながら大久保先生の指示に従って、終始楽しそうに活動していたのが印象的だった。実習を終えた大久保先生は「教えることの難しさ、楽しさを実感した日々でした。この経験を今後の生活に生かしたいです」と感想を述べた。



ようこそ先輩

在校生にメッセージ

久しぶりの高校でしたが、高校生活同様、先生方にたくさんお世話になり、叱咤激励をいただきました。皆さんは、保護者や先生方という味方が常にそばにいてくれます。私自身、進路決定やこうして大学生になった今も助言をもらっています。自分はまだ、経験が浅いときは理解できなかったことも今は少しずつですが分かるようになってきたこともあります。自分に関係のないようなことも、いつ、どのように自分の生き方に役に立つかわかりません。高校生活は人生のたった3年間。向陵で自由にのびのびと過ごして色々なことに挑戦してみてください。3週間ありがとうございました。

チャレンジ講座 Do it yourself講座 6月8日(火) 時間短縮をして実施

キャンディクラフトコース

1年 水無 茉桜(階上中学校出身)
「アニマルキャンディ」「アイスキャンディ」「ジュエルキャンディ」の4つを作りました。中でも苦労したのは「ジュエルキャンディ」でのグラデーション作りです。ろうが固まるのが早くて気泡がきたり、ろうを入れるのが遅くて境目ができたりして難しかったです。でも、先生に手伝ってもらいながら綺麗に完成させることができたので良かったです。キャンディは、色々な作り方があって面白かったし、先生方やペアの友だちにも聞きながら安全に楽しく活動することができて楽しかったです。そして、後片付けも凄く頑張りました。前の講座のときに後片付けに積極的に参加できなかっただったので、前回の経験を生かして今日は最初から頑張れたので良かったです。



フレイクスイーツコース

1年 中村 真陽(三沢市立第一中学校出身)
楽しく活動することができました。しかし、クリームの分量を考えず進めてしまったので、途中で足りなくなったり直しました。そのため、かなり時間がかかってしまいました。完成した作品はなんとも言えない感じになりました。また作る機会があったら、次は先のことを考えてパランスよく仕上げたいです。今回で2回目のチャレンジ講座は、先輩や他のクラスの人との交流もあるので高校生活の楽しみの一つです。



木工コース

1年 奈良 明音(東中学校出身)
最初簡単なように見えましたが、やってみると意外と難しく驚きました。特にアイスを作るのが難しくリアル感を出すのが苦手でした。私は、ピノキオのパーツを作りました。ハートや羽を形作るのに時間がかかりました。また、ホイップを絞って入れるのも一苦労でした。ホイップが意外と固く全然グラスに付いてくれないので、一生懸命頑張りました。友だちと一緒に楽しく作ることができて良かったです。



木工コース

2年 森崎 維月(第三中学校出身)
昨年、コロナの影響で中止になったDIY講座は初体験でした。木工コースは、のこぎりを使った作業でした。中学校以来の作業だったので少し緊張しました。最初は、真っ直ぐに切ることができず苦戦しました。友だちと協力しながら作業を進めると、徐々に真っ直ぐに切れるようになりました。切った板を組み立て、ネジで止める作業も思った以上に大変でした。ネジが入っていかず、力任せにやると板が割れそうになり、加減しながらやるのが難しかったです。作業工程は苦戦しながらも余裕をもって完成することができました。余った時間でアレンジを加えました。



八戸焼・手捻りコース

1年 水田 幸真(市川中学校出身)
最初に先生がお手本を見せてくれました。先生の作品はどれも素晴らしい、それに近づけるよう頑張ろうと思いました。しかし、先生のように形を整えるのは難しかったです。特にコップの穴あけに時間がかかりました。初めての作業は、つまづくこともありましたが皆の作り方をみたり、アドバイスをもらいながら作業できて良かったです。



1年 野坂 琉偉(白山台中学校出身)
コップと湯呑みを作りました。上手く整るのは難しく、最初に作ったものは口を大きくし過ぎて湯呑みというよりは花瓶のようになってしまいました。2つ目は作ったものは、1つ目の失敗を意識して飲み口を小さく作ることができました。今回の体験は、初めてやることだったので失敗もありましたが成功した部分もあり、何より楽しく活動できました。

3年 和田 大勢(江陽中学校出身)
初めての八戸焼き体験は、黙々と作品作りに没頭できました。成型時に、空気が入ると焼く際に爆発することもあったというので、素早く丁寧に取り組むことを心掛けました。コップと皿を作りましたが、コップの飲み口を滑らかにするのに苦戦し、台を回しながらの調整となりました。調整の仕方講師の方が手本を見せて下さったので、台の回転を利用しながら指を器用に使うことで形がどんどん変化していく様子が凄かったです。講師の方の手直しもありましたが、満足のいく作品ができたので、焼き上がって手元に届くこと、そして実際に使うのが非常に楽しみです。

ブライダルボックスコース

2年 八木田実咲(北稜中学校出身)
最初にブライダルボックスは、繊細で芸術性が高く時間を要していることが分かりました。見ているよりやる方が難しく、昔の人の凄さを実感しました。



針金が短すぎても長すぎても蓋が閉まらなくなるので、パランスよく巻くことが難しかったです。巻き終わったら、花の位置を決めてボンドを塗ってスポンジに挿しました。位置を決めて作っていきましたが、想像とは違の色合いになったり、パールなどの装飾の置き場所に困ったりしました。しかし、完成した作品は納得がいきました。残った時間で、ハーバリウムを作りました。ブライダルボックスアレンジで余った花をハーバリウムに使用しました。クラデーションにしたり大きい花を入れたり色々試しましたが、満足がいわず時間だけが過ぎていくので焦りました。何とか完成しましたが、自分の思っていた物とはかけ離れたものができました。体験中の目標であった「限られた材料で自分の満足する物を作る」はハーバリウムでは達成することができませんでした。次、やる機会があったら今回学んだことを生かしながら作りたいと思います。



縄文土器コース

1年 守永 賢心(茅ヶ崎市立福田中学校出身)
縄文土器作りを体験してみても、作る大変さを感じることができました。簡単そうに見えた土器作りは、繊細で芸術性が高く時間を要していることが分かりました。見ているよりやる方が難しく、昔の人の凄さを実感しました。



1年 西村 栄太(小中野中学校出身)
物作りの経験が少ないので、心配でしたがその割には上手くできて良かったです。何事も挑戦することが大切です。作業中、形が崩れかけたりもしましたが、補修したりしながら対応することができました。自分のイメージ通りに作ることができて良かったです。

1年 小向 香穂(三条中学校出身)
縄文土器作りは、粘土がすぐに乾いたり、伸ばすのにコツが必要だったけれど、最後はいい感じにできたので良かったです。こねた粘土を積み重ねていくときに、広がってしまったり、厚さが均等にならなかつたりして大変でした。粘土紐の貼りつけや、最後の紐を使った模様つけも少しづつできていました。作業工程は苦労しましたが、ボランティアの方々に教えてもらいながら楽しく作業ができました。